

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。私が与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。

ヨハネ4:14

# よろこびの泉

670  
2016年  
5月発行



新しいいのち

朝に移らない夜はなく  
春が訪れない冬はない  
晴天にゆずらない雨雲はなく  
山頂につづかない溪谷はない  
幸いにみちびかれない禍いはなく  
喜びにむかえられない悲しみはない  
愛に手をさしのべられない憎しみはなく  
主イエスに救われない罪人はない

河野 進詩集「母よ幸せにしてあげる」より

## 朝と夜

河野 進

発行所 〒630-0266 奈良県生駒市門前町七-四〇 日本ミッション  
電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇〇九三〇二六六四二番

発行人フアベイ・D  
編集人日本ミッション編集部

印刷所 〒350-0303 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇  
電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 九〇〇円  
定価 一部 一八円

2016年(平成28年)5月1日

よろこびの泉

第670号 (4)



**問** 二月に初めての赤ちゃんが生まれまし  
た。ニコニコする我が子が可愛いと思う  
ときと、夜泣きして中々寝てくれない日が続く  
と、この子さえいなければもっと楽しめるの  
と、思ってしまう自分がいて嫌になります。

**答** 独身時代は〇として一  
日の勤めを終えると定時に  
会社を飛び出して、ショッピング  
やカラオケ、ライブコンサートな  
ど青春を楽しむことが出来ました。  
気の合った友人と長い休暇を取っ  
て海外旅行にも出かけたでしょう。  
結婚するとそれまでのような自分  
の思いのままに楽しみを追い求め  
る生き方をキツパリ捨てて、配偶  
者や子ども、身近な人のため愛を  
与えて生きてゆかなければならま  
せんし、子どもが生まれると甘い  
新婚の夢も醒めておしゃれもでき  
ず、所帯じみておばさんになっ  
てしまったと結婚生活がマイナス思  
考になり勝ちです。

れには我が子に集中して注ぐ思い  
やり、優しさ、寛容。自分に対し  
ては忍耐と自己犠牲という女性愛  
が不可欠ですね。  
所が生まれつきの私たちは皆自  
己中心で、わがままな心に勝つこ  
とが出来ません。対して、聖書を  
通して示される神の愛は限りなく  
深く広く熱く永遠です。この愛は  
イエスキリストを信じるときにあ  
なたの心にも注がれ、あなたは真  
の愛の人に変えられます。その時、  
子育ての苦勞が苦勞ではなくなり、  
どんな豪華なレジャーにもまさる  
深い喜びとなります。

「永遠の愛をもって、わたしは  
あなたを愛した。それゆえ、わた  
しはあなたに、誠実を尽くし続け  
た。」  
(エレミヤ31・3)  
(児玉 博之)

## 親と子のしあわせ

382

五月には母の日があり、幼稚園では  
子どもたちにお母さんの絵を描いても  
らい、親子遠足の時にお母さんたちに  
プレゼントします。

「おかあさんいつもありがとう。」「マ  
マだいすきだよ」と、それぞれに一言を  
添えて渡します。すると、「ありがとう。」「  
お母さんも大好きよ」と言いながら、  
お母さん方も笑顔で受け取ります。見  
ている私たちにも笑顔があふれてきま  
す。子どもからもらった絵は、お母さ  
んには宝物で、子どもが与えられた事  
の恵みを感じます。

我が家の子どもたち(大学、高校、中  
学生)も、幼稚園の時に似顔絵をくれま  
した。色あせてはいますが今もリビン  
グに飾っています。クラスで作って  
くれたペン立ては今も使っていますし。  
肩たたき券やお掃除券をくれたことも  
あります。大きくなってからは、お小  
遣いをためて、子どもにとっては高価  
な物を買ってプレゼントしてくれるの  
で、その都度感謝しています。振り返  
ると、怒り過ぎたこと、言わなくても

いいことを言って傷つけたこともあり  
反省ばかりの母親です。しかし、子  
どもにとっては世界で一人の母親です  
から、子どものために祈り、精一杯し  
あげたいです。

私も子どもの頃色々考えて母にプレ  
ゼントをしました。母は喜んでくれま  
した。六十代で脳梗塞になった母は、  
老人ホームで毎日私たち家族のために  
祈ってくれています。会いに行くと「受  
験のために一生懸命祈ったよ。」「風邪  
大丈夫ね。お祈りしてるよ。」「お母さ  
んが具合が悪いと困るよ。心配だね」と  
いつも私や孫の心配をして祈っていま  
す。今は人のお世話になる立場ですが、  
祈る心はいつも持っています。母親に  
定年はないと感じ感謝しています。

「女が自分の乳飲み子を忘れようか。  
自分の胎の子をあわれまないだろうか。  
たとい、女たちが忘れても、このわた  
しはあなたを忘れない。」「イザヤ49・15)  
乳飲み子や胎の子をあわれまない母親  
もいる時代です。傷ついて成長し母親  
になった方もありますが、神さまは、  
私たちを愛し忘れないと言われます。  
慰めの言葉です。」  
(相原 幸紀美)

\*この「よろこびの泉」は、統一協  
会、エホバの証人、モルモン教  
のものではありません。  
これらの問題でお困りの方は、  
上記の教会にご連絡ください。

●質問箱への投書(100文字以内)よろこびの泉に関するお問い合わせは lzumi@japanmission.org まで

# 真の生きがいを求めて

京都市 玉田 陽子

幼稚園がカトリックだった私は、素直に神さまの存在を受け入れていたのですが、小学校に行くようになると、バカにされるようになり、次第に神様のことは「作り話」「弱い人間の逃げる道」と思い込むようになりました。結果、心はただ虚しさが増すばかりでした。

私は一九五〇年五月に四人兄妹の次女として生まれました。幼稚園がカトリックだった私は、教えられるまま素直に神さまを信じていました。が、小学校に行くようになり「幼稚だな」とバカにされ始めると、今までの話は作り話だったと思うようになり、神は人間が作ったもので、弱い人間の逃げ道だと考えるようになっていきました。

又小学生の頃から、何のために生きるのかと考える子どもで、でも答えは見つからず、人間も他の生物と同じでただ死ぬだけの存在だと思っていました。

高校時代は、表面的には穏やかな日々を送っていましたが、死ねば終わりならば今死んでも同じではないかと自殺を考えたり、時々襲う虚無感に投げやりな気持ちになったりしました。生きがいのある仕事をと思って看護婦になりましたが、やりがいはあっても心の奥の虚しさは埋められませんでした。

## 本と、同僚との出会い

それが、二〇歳の誕生日に本屋さんで「道ありき」という題にひかれて三浦綾子さんの本を購入したことがきっかけで、その後続けて三浦綾子さ

んの本を読むようになり、宗教に対する見方が変わりました。自分がいかに弱い人間かを知り、未知の世界に対する興味もあり、宗教関係の本を読むようになり、自分から教会に行くことには抵抗がありませんでした。

そんな私に神さまは、クリスチャンの同僚と一緒に住むようにしてくださいました。その友人に聖書を頂き、誘われて教会に行きましたが、私には礼拝のお話はよくわかりませんでした。しかし友人に「わかってもらえなくても、だまされたいと思っ三年間教会へ行ったら」と言われ、生きるための確かなものが欲しいと思っ三年間、疑い深く、目に見えない神が存在することはとても信じられないと思っ三年間私でしたが、

## 初めて聖書のみ言葉が

心の内に飛び込んできたのです。それはある書物を読んでいた時です。

「いまだかつて、だれも神を見たものはありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです」「私たちは、私たちに對する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにあり、神もその人のうちにおられます。」(ヨハネ4・12、16)

このみ言葉に一筋の光を見出したように思い、愛である神さまがいっしょに歩むなら、信じたいと思っ三年間私でしたが、

毎週礼拝出席するようになって約一年たった頃、青年キャンプがあり初めて参加しました。キャンプ場に行く船の中で熱心に聖書の話してくれる女性に「あなたは、『聖書が、聖書が』と言うけれど、も

訪問時、聖書の話の時だけはきちんと正座して聞いている姿を見て神さまに感謝しました。

## 聖書学院へ、そして結婚

私を愛し私のためにひとり子なるイエスさまを十字架に架けるほど愛してくれている神さまがおられる喜び、その神さまにすべてを任せて間違いがないという平安を与えられましたが、もっと神さまのことを知りたい、聖書を学びたいと信徒のための聖書学院に一年間行きました。信仰をもつてすぐの解らないままの入学でしたが、よここびと悩みの中、私の信仰の核となるものが与えられました。そして、生涯の友となる方とも出会うことができました。

結婚に対しても臆病な思いが消え、神さまを中心とした家庭を築きたいと祈りはじめました。そして、淀川キリスト教病院に勤めている時、同じ職場のスタッフから、日本ミッションの病院伝道師として奉仕していた主人を紹介されました。彼と出会ったその日、私はこの人と人生を共に歩み

たいと思っ三年間私でしたが、彼は先天性ファロー四徴症で生まれ、一三歳から一五年間結核療養所に入院し、結核が癒されてから二八歳で心臓手術をしたことなど淡々と語ってくれました。私はその話を聞きながら、神さまの御業を見る思いがし、何かホッとする人柄に、自分を飾らずそのままいられる安心感で、神さまが与えて下さった人だと確信したのでした。

三三歳で結婚。三五歳で男子が与えられました。結婚生活三三年間を振り返れば感謝の日々でした。困難なこともありましたが神さまに守られてすべてが益となることを体験させていただきました。ここまで来られたのは神さまの一方的な恵みと憐みのゆえであると感謝しています。

「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。」(ピリピ4・19)

※4月号の3ページに一部誤りがございました。「学びを重ね二〇一六年」は、正しくは「学びを重ね二〇一五年」です。お詫びして訂正させていただきます。

## 祖父と共に

しキリスト教の土台である聖書が間違っていたらどうなるの」と質問をしました。するとその人は静かに聖書を開いてテモテへの手紙第二 3章16節を見せてくれました。そこに「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のためには有益です」と書かれていて、そのみ言葉はスーッと私の心に入り「ああ、そうなんだ、そうしたら間違いはない」と思っ三年間私でしたが、

一九七九年一〇月(二九歳)に洗礼を受けました。その日、私の祖母(クリスチャン)が祖父と一緒に来てくれました。千種川での洗礼式の前に突然祖父が「わしも洗礼を受ける」と言い出したのでした。牧師はその場で祖父に洗礼のためのお話をしました。それまで牧師の訪問を受け聖書の話も聞いても「自分には罪はない」と言っ三年間私でしたが、



「私たちの外なる人は養えても、内なる人は日々新たにされています。」コロソント4:16